

# 2010 年頭挨拶

代表取締役社長 柳屋芳雄

「厳しい時代にこそ、  
もっと新しい技術を！もっとサービスを！」



新年、明けましておめでとうございます。  
今の厳しい時代については今更何も言わなくても皆様も十分にご承知のことと思われま

す。世界中でデフレ経済が進み、毎日、商品の価格が下がっています。ヤナギヤを取り巻く環境は大変厳しいものがあります。しかし、やるべき一番大切なことは「今だからこそやらなければならないことは何か？」を真剣に考え行動すること」だと考えています。

基本的には、“お客様に満足していただく”ということが一番大事なことだと思います。その為にはヤナギヤが何をすれば良いかということですが、キーワードとしては「新しい技術」であり、お客様が“こんなことが出来るのか”“こんな新商品が開発できるのか”という期待と「ヤナギヤに相談すれば何とか出来る」「ヤナギヤと一緒に新商品開発をしよう」といった希望を持って頂けるよう、原点にもう一度返ろうと思います。それから、ビフォーメンテナンス、アフターメンテナンス、緊急時にも対応したメンテナンスを確実にやっていくことが大切だと考えています。また、機械品質の向上を図り、工場から出荷する場合には完璧なものとして出荷したいと思います。

さて、昨年の“新技術”としては「IHフライヤー」を作った安田蒲鉾さんに納品させて頂きましたが、納入後の結果も“±1℃で温度制御が出来ているので管理が簡単で、製品のばらつきもなく、油の劣化も遅くなった。ランニングコストも半年間の結果では問題ない！”と高い評価を得ており“お客様にも大変満足していただいている”と思っています。また、フライヤーについてはお客様のご要望により、新技術として「蒸気」と「電気」による“ハイブリッドタイプ”の新機種開発にも着手し、既に本機への発注も頂いております。フライヤーにつきましてはガス式を止めると言う訳ではなく、「IH式」「ハイブリッド式」「ガス式」の3本柱で考えていますが、今年はIHやハイブリッドタイプの新技術を中心に営業展開を行って参りたいと思います。

また、今後の展開として、練り製品は大まかに分けると基本的には「蒲鉾」「天ぷら」「竹輪」「カニカマ」の4種類ですので、この4種類の製造工程をもう一度、設計部と開発部で見直しを行い、蒸し機や竹輪、カニカマも更に改良し、お客様からこんな面白いものが出るのかというように興味を持って頂けるようなグレードアップした機械開発を行っていききたいと思います。特にお客様から「新タイプの竹輪製造装置」の開発要請がありますので、難しい物件ですが、今はやらせて頂きたいという方向で考えています。本件は過去に何度もヤナギヤがチャレンジしながら壁にぶつかり、テーマとしては悩む物件ですが、時間がある今だからこそ逆に出来るのではないかと考えています。

それから、豆腐業界に関しましては“ヤナギヤの機械で作った豆腐は美味しい”と思われるよう技術向上を目指します。「BIG-J」がヤナギヤの“絹豆腐の顔”とすれば、“木綿の顔”は、昨年「ものづくり中小企業製品開発等補助金」に申請して採択された「新型木綿製造装置」としたいと思っています。本年度中には試作機を完成させ、この新技術を早く業界の“核”として販売していききたいと思います。「新型木綿製造装置」もヤナギヤらしさを追求して“ヤナギヤだったらこんな風に出るんだ”と思っていただけのような装置に仕上げて行きたいと思っています。

その他の分野ではペットフード関連も少しずつではありますがお客様のニーズにマッチした機械作りを進めていますし、非常に有望な市場でありますので今後も一緒になって技術開発を行っていくつもりです。また、海外につきましては“中国”や“インド”という、はっきりとした国を見据えた営業展開を図っていききたいと思います。高い成長率を誇る中国市場で、短絡的に「カニカマ」を売るといったことではなく、中国でBIG-Jは売れないのか、何か売れるものはないのか、何が出来るのかをもう一度方向性を考えていききたいと思います。

まだまだヤナギヤという会社は“色んなことをやってくれる会社だ”という認識とともに何をやるかではなく、やれることを愚直に行っていききたいと思います。

今は大変厳しい時ですが、ヤナギヤの歴史の中では今よりももっと苦しい時代がありました。私が社長を引き継いだ昭和50年当時は、技術もなく、お金もなく、人材もあまり育っていない時代でしたので、大変厳しく、手形が落ちないという月もありました。ただ、その時はヤナギヤがやっていない仕事は何なのか、出来る仕事は何なのか分かっていなかった時で、何から手を付けようかと言う時代であり、自分たちの思いで機械を作って売っていたような気がします。しかし、今はヤナギヤで出来ることは沢山ありますし、やらなければならないことも沢山あります。

振り返れば、社名を「ヤナギヤ」に変更した昭和60年当時からは「お客様のニーズ」「お客様の不満」に対して商品化を進めて参りました。「カニカマ」や「ボールカッター」はそのような中から生まれたもので、今は、そういった形で原点に立ち返って物考えるべきだと思っています。

それから、昨年末に、私のおじいちゃんの直筆の履歴書が見つかったことで、創業年を変更することを発表いたしました。それからするとあと5年、2015年で創業100年目を迎えることとなります。100周年を目標に、全員で力を合わせて生き残って、また記念旅行などにも行きたいと思っています。

また、来年度の新社員につきましては苦しい時期ではありますが、将来を見据え、6名を採用しました。大手が採用を控える就職氷河期といわれるこのような時代ですが、逆にヤナギヤにとっては良い人材が採用できるチャンスでもあり、優秀な人材6名の採用を行いましたので、彼らをしっかり指導していききたいと思います。また、お客様に対しては、とにかく「新しい技術」と「丁寧なメンテナンス」です。新商品も早く導入していききたいと思いますので、皆で力を合わせて取り組んでいききたいと思います。今は自分たちの本業をしっかりと愚直に行い、お客様に満足して頂くよう全社員で努力していききたいと思いますので、1年間よろしくお願いいたします。

## 一年頭挨拶 取締役副社長 柳屋幸明

明けましておめでとうございます。元日には宇部の琴崎八幡宮にお参りに行きました。例年だと参拝者は上の段から並んでいるのですが、今年は1番下から並びました。このような苦しい時代ですから、やはり“神頼み”ということと、遠くではなく近くにお参りに行くということから参拝者も多かったのかと思います。私も今年1年のヤナギヤの発展を祈念してきましたので、あとは我々がどう動くかということ。社長挨拶にもありました“新製品”についてですが、去年はお客様から“ヤナギヤに「竹輪」をやってほしい”という要望がたびたびありました。その理由としては、“携わっているメーカーの体力が落ちていて不安を感じる。竹輪製造装置メーカーが無くなっては困る。”というのがお客様の声です。また、“グランドで畑を”という話も出ていますが、同じやるからには自社から出た生ゴミも堆肥化してグランドの肥料にするくらいの気持ちで取り組んで行ければと思います。実際にお客様からも、ヤナギヤに「生ゴミ処理」をやったらどうか？というお話も出ます。これも、10数年前には多くのベンチャー企業が参入しましたが、何年かするといつの間にかその会社はなくなっているということが多かったようです。我々のお客様からすれば設備をしたくても“信頼できるメーカーがない”ということから、当社へそのような話をされます。お客様は「まかせられる安心感」を求められているのであり、それは「ヤナギヤへの信頼」でもあります。このことは今のサバイバルを生き残っていくための大きなヒントになるのではないのでしょうか。まだまだやることはありますし、ヤナギヤの未来につながっていく「新技術」はあるのではないかと思います。社長は“ヤナギヤの本業”について話されましたので、私はヤナギヤの将来へ繋がる事を考えながら、皆さんとともに1年間過ごしていききたいと思います。苦しい1年になると思いますが、このような時こそ“後追い仕事を無くす事”に限ると思っています。出荷時にはお客様の所での追加工事が無いように、しっかりとした形で収めていききたいと思います。最後になりましたが、皆様のご健勝、並びに事故が無いよう祈念いたしております。

